

令和元年度 学校評価 自己評価書

あま市立正則小学校

1 総 括

(1) 教育目標（学校経営案より）

「夢をもち 未来を切り拓く ーかしこく あたたく たくましくー」

《めざす児童像》

かしこく …… よく見て よく聞いて よく考える子

あたたく …… 思いやりのある素直な子

たくましく …… 体を鍛え ねばり強く取り組む子

児童のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、公共の精神を尊び、自他の敬愛と協力により創造的で活力に満ちた社会の発展に尽くす態度を養う。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 学習指導の充実

- ・ 算数に少人数指導やT T指導を取り入れて、個に応じた指導の充実を図る。
- ・ 生きる力や確かな学力を身に付けさせるために、コミュニケーション能力の育成や言語活動の充実を図る。
- ・ ユニバーサルデザインの授業を工夫する。
- ・ 対話的な学びを通した問題解決的な学習や体験的な学習の充実を図る。
- ・ 家庭教育の手引きを作成し、家庭での学習習慣の確立を図る。
- ・ 新学習指導要領実施にともない、特別の教科道徳、外国語科について校内現職教育を充実させる。

イ 豊かな心の醸成

- ・ 毎日のあいさつを大切にする。
- ・ 異年齢集団活動(すこやか活動)を教育活動に取り入れる。
- ・ 自己肯定感を高めるために、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを利用した指導を充実させるとともに、内面に根ざした道徳の指導に努める。
- ・ 歌声の響く学校にする。

ウ たくましい心身の育成

- ・ 体育授業の改善や休み時間の外遊びを通して、体力の向上に努める。
- ・ 食育指導や保健指導、保健集会などを通して、健康的な生活づくりに努める。

エ 教職員の健全なサービスの徹底

- ・ コンプライアンス面談を定期的に実施し、不祥事根絶の意識を高める。
- ・ 事務処理の簡素化、会議・行事等の精選を通じて、心身共に健康な状態で勤務できるよう業務改善を図る。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和元年12月3日～14日

(2) 調査項目 別紙アンケート質問紙参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児童	266名／ 全279名	・ 保護者	264名／ 全279名
・ 教職員	18名／ 全 18名	合 計	548名／ 全576名

3 調査結果

別紙 資料「学校評価のまとめ」・アンケート結果参照

4 考 察

(1) 学習面

教職員のアンケートでは、「研究授業や現職教育で、授業を行ったり、見たりして、指導力の向上に努めた」が相変わらず高いが、これは、教務主任を中心に計画的に研修を進めてきた成果であると考えられる。その一方で、設問「児童一人一人を大切にしたい授業の展開」のポイントが下がった。これは、理想とする授業が「考え、議論する」であったため、展開によって児童の参加状況に差ができたことと、それぞれのクラスに手のかかる児童がいて、その子に対応する必要があったことの2つが考えられる。また、職員の体調不良等、年度途中の指導体制の変更があり、落ち着きを欠いたことも影響していると考えられる。

児童のアンケートでは、「話を聞く」や「進んで自分の考えや感想を発表する」の項目で少し下がった。「聞いて考える」活動に力をいれて指導してきたため、発表することに自信がもてなかった児童がいたと考える。「家で同じような時間に勉強している」が少し増えた。保護者アンケート「家庭で決まった時間に勉強をしている」のポイントもやや上昇していることから、少しずつ取組の成果が表れてきたと考える。また、「チャイムがなったら席に着く」や連絡帳をきちんと書く」は、少しポイントを下げたものの学習規律への意識は高い。この学習規律の高まりが保護者アンケートでの設問A「学習に向かう態度が身についている」に反映されているものと推測される。継続して、意識を高めるような指導をしていきたい。

(2) 生活面

児童・保護者ともに、「毎日楽しく生活している」の項目で高いポイントを示し、心穏やかに生活できていることをうかがえる。また、児童の「本をよく読みます」、保護者の「子どもは家で読書をよくする。」は、少しではあるが、ポイントが上がってきた。学校で本に触れさせる時間を意図的に確保することや家庭への呼びかけを心がけた成果と考える。さらに、学級文庫や図書室の整備を進め、読書の大切さや本に親しむ楽しさを実感できる取り組みを拡充させたい。

5 成果と課題

- (1) 「たがいのよさを認め合い、よりよく生きようとする児童の育成」をテーマとして、特別の教科道徳の現職教育も2年目となった。教材活用の技術を高め、道徳的価値に迫る授業展開を工夫して、「考え、議論する道徳」の実戦に向けて研修している。また、心の教育の一環として、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを活用して、互いを認め合い、自己肯定感の高揚を目指している。題材の課題を自分ごととして捉えて解決していく中で、心情バロメーターや役割演技という手立て

は、それぞれの見方感じ方の違いを認め、自分の考えをもち、話し合う中で考えを深める点で、有効であったと考えられる。一方、反対に発言に対して消極的な気持ちをもつ児童への対応や、テーマにせまる議論の進め方などが、今後の課題である。職員のアンケートで、昨年度低かった「カリキュラムに沿っていなかった」については、改善が見られた。次年度も課題として取り組んでいきたい。

- (2) いじめ問題や学校不適応問題への対処として、年2回の児童へのアンケート調査に加えて、学級担任との面談時間を設けている。このことが、教師にとっては児童の心情理解につながり、また児童にとっては学校生活上の安心につながっている。折に触れ、教育相談の他にも、相談の機会を随時設けていくように、職員へ指導していくことが大切だと考える。特定の児童については、教師が意図的に居場所づくりを模索していく。スクールカウンセラーとの連携を密にして、悩みのある児童や保護者と面談できるように声をかけていく。
- (3) 基礎学力をつけるために、漢字の読み書きや計算等できめ細かな指導を行ってきた。昨年より「漢字・計算ウィーク」を設け、基礎的な内容のミニドリルを行い、全員合格を目指して意欲的に取り組ませることができた。

一方、文章構成を考えたり事実や感想・意見を書いたりする表現力や必要な情報を集めながら読み取る力、四則混合計算の正確さや数量の関係を式に表したり数量を表やグラフで表したりして説明し考察する力を伸ばすことが課題である。

- (4) 体力づくりは、以前からの課題であり、25分の休み時間を設けて外遊びを奨励したり、学年を縦割りにした「すこやか班」の活動で縄跳び大会等を企画したりしてきたが、今のところ成果にはつながっていない。今後も、好き嫌いのない食べ方や運動習慣、睡眠等、適切な生活習慣の大切さを各家庭に呼びかけるとともに、体育の授業の中で体づくり運動等を継続的に取り上げるなどの工夫をし、体力の増進を図っていきたい。
- (5) 学校運営協議会委員からは、「落ち着いた態度で生活できている」「授業公開への親の出席が多く、熱心に関心も高い」「地域と密接につながり、地域で育てる形を継続してほしい」「子ども狂言を始めとする福島正則公の研究・調査（プロジェクトMASANORI）を今後も継続してほしい」との意見をいただいている。コミュニティスクールの一環として、これまでの活動に加えて、植栽の剪定作業や持久走大会の交通整理、6年生の「狂言発表」に向けての衣装協力など、地域の皆様にお手伝いいただき、実践することができた。

6 改善策

(1) 学習面

- ・ 学習規律に関する高い意識を教師も児童も継続できるように、学習に関する正則スタンダード構築の取り組みを進める。
- ・ よりわかりやすい授業を行うために、授業のユニバーサルデザイン化を図る。
- ・ 児童の表現する機会や発信する機会を増やすために、ノートに自分の考えを書いて説明する活動やペア学習、グループ学習を重視する。
- ・ 発言を認め合う中で達成感や自己肯定感を感じさせるように、授業を構成する。また、より学習内容を定着させるために、振り返りの時間を意図的に確保する。
- ・ 道徳や外国語、プログラミングの授業について研修を行い、自信をもって指導できるように努める。

- ・ 配布した家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の習慣化を意識して課題を出すように心がける。
- ・ 学校の図書室の利用機会を意図的に設定する。家庭にも「家読」の習慣化を呼びかける。
- ・ 今年度、後半から取り組んだ「辞書引き学習」を継続していく。

(2) 生活面

- ・ 体育の授業で意識的に児童の体力強化に努める。また、児童会活動やすこやか班など、学校生活の中で継続的に体を動かす習慣づくりをする。
- ・ 食育指導や心の健康教育、健康相談等を通して、心身ともに健康的な生活づくりを支援していく。
- ・ 児童のコミュニケーションスキルを高めるために、道徳や学級活動でソーシャルスキルトレーニングを今後も継続して行う。

(3) その他

- ・ 新指導要領の実施、働き方改革に伴い、学校行事の精選や実施時期についての見直しを図る。
- ・ 外国語活動の時間数増加や外国語科の教科化、各教科における評価の内容の変更、現職教育や特色ある学校づくり事業等、今後の教育の変化について教職員間の共通理解を図る。
- ・ 備品の整理整頓を心がけ、施設設備の充実や大規模改修について、長期的な展望をもつ。